


子どもと夢を語りましょう

プログラムのねらい

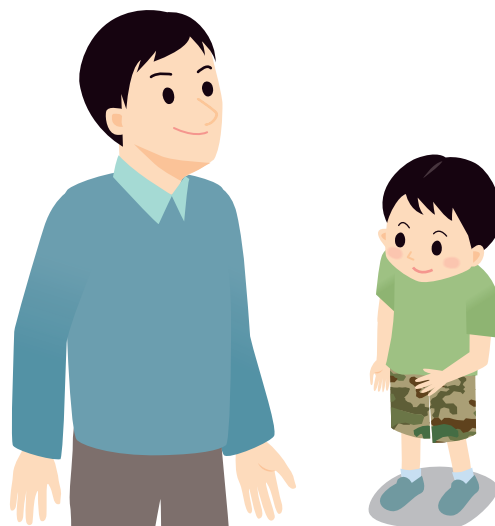
子どもの将来の夢やなりたい職業を家庭で話題にすることはとても大切なことです。子どもの成長とともに、将来の夢やなりたい職業は変化していくこともあります。その時々話題にすることで子どもの成長を知ることができます。ここでは、子どもの夢を中心に子どもの心をつかむ方法について学習します。

【プログラムの展開例】（時間：60分程度）

	○進め方 ◎ことばかけ	留 意 点
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> ○自己紹介をします。 ○プログラムのねらいや学習の進め方について説明します。  <ul style="list-style-type: none"> ○自己紹介やゲームをして緊張感を和らげたり、参加しやすい雰囲気をつくります。 	<ul style="list-style-type: none"> ○明るく元気な話し方を心がけます。 ○今日のプログラムのねらいについて、ポイントをしぼりわかりやすく説明します。 ○参加者に気を配り、ゲームに参加できていない人や戸惑っている人には、明るく声かけをして参加を促します。 ○ゲームなどが終了するまでに、次の活動にスムーズに移れるようにグルーピングしておきます。 ○1グループにつき5～6人（全体の人数が少ない場合は3～4人）を目安に編成します。 ○導入で時間を取りすぎると展開やまとめの時間が少なくなります。あらかじめ時間配分を考えて進めていくようにします。
展開 40分	<ul style="list-style-type: none"> ◎最近、皆さんは、お子さんと話をしていますか。プログラム集P88の資料「親との会話」、「親と会話をしない理由」を参考にしながら振り返ってみましょう。 ◎今日は会話を増やす一つの手だてとして子どもと夢を語りあうことの大切さについて学んでいきます。 ◎「ワーク1」は、皆さん方が描いてきた夢について語るものです。書いてみましょう。 ○グループで話し合う時間を設定します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもとの会話の多い家庭から話を聞いておき、会話を多くもつこつや心がけていることを紹介します。 ○プライバシーには十分配慮して、記入してもらいます。 ○グループで発言を強要することのないように話します。 ○グループでの話し合いが進んでいない場合には、自分の体験談を話すなど話しやすい雰囲気づくりに努めます。

	<p>◎「ワーク2」は、皆さんのお子さんの夢について語るものです。書いてみましょう。</p> <p>○グループで話し合う時間を設定します。</p>	<p>○ワーク1と同じ展開で進めます。</p> <p>○励ましのことばかけなど子どもの夢を大切に する家庭の雰囲気は子どもの意欲を引き出す ことを話します。</p> <p>○手引の資料P71の「大きくなると、できて当 然？」を示し、子どもの成長を励まし、夢を 大切にする事の重要性について話します。</p>
<p>ま と め 10 分</p>	<p>◎今日の学習のまとめをしましょう。</p> <p>○参加者一人一人に今日の学習を通して考えた ことや感想を書いてもらいます。 (ふりかえり)</p> <p>○発表してもらいます。</p>	<p>○今日の学習を振り返り、特に印象に残ったこ とを中心に書くように話します。</p> <p>○あらかじめ、数人の方に感想を発表してもら うようお願いしておきます。</p> <p>○発表を共感的に受け止め、発表に対して手短 かにコメントします。</p> <p>○子どもたちの夢を大切にし、子どもたちのよ さや可能性を引き出していくことを心がけて いくことを話しまとめます。</p>

※ 設定時間が短い場合には、ワーク2を中心に流れを考えるようにします。



資料 1

夢をもつと人は強くなる

今の子どもたちは冷めていて、将来の夢や希望ももたず、難しい目標は チャレンジする前にあきらめてしまうと言われてしています。しかし、子どもは子どもなりに夢や希望をもっています。どんなに小さく、どんなにヘンに思えるものでも、その夢や希望に耳を傾けましょう。

また、自分の経験や長い間にわたって苦労して夢を実現した人々の生き方などを折りにふれ話しましょう。そして人生の目標は汗を流し、失敗を重ねながら達成していくものだ、励まし、あたたかく見守っていきましょう。

「親は子どもの応援団」です。

資料 2

ダメなところを責めるより、良いところを増やしていこう

子どもに大切なのは、自信と、自分を大切にする力です。それは、植物の根のようなもので、深く広く張るほど大きな実りをもたらします。表面的なことにとらわれることなく、その子が大きく育つことを信じて心に豊かな水や栄養を与えましょう。

そして、その水や栄養となるのが、子どもの良いところを思い出し、ほめることです。叱るべきときは叱り、ほめるべきときはきちんとほめる。また親の思い通りの方向ややり方で子どもが行動しなかったとしても、その子なりの工夫や考えは見守り、認めることが大切です。発達に応じて、子どもに任せる部分を次第に増やしていくことで、子どもは自らの成長を実感し、自信をもつことができます。

「良いところは見つけてほめる」

(資料 1、2は、文部科学省『イキイキ子育て家庭教育手帳－埼玉県版－(平成19年)』から)

資料 3

話してみようかな

子どもは、学校で今日どのような一日を過ごしてきたのでしょうか。

楽しいことがあったのかな？

うれしいことがあったのかな？

それとも

悲しいことがあったのかな？

つらいことがあったのかな？

皆さんは、その話をどのように聞きますか。

楽しいことやうれしいことはもちろんですが、特に悲しく、つらい話を子どもが話してみようかなと思える家庭の雰囲気大切なんですね。

資料 4

大きくなると、できて当然？

乳幼児の頃を思い出してみましょう。

「今日は○○ができるようになった。」

「昨日はできなかったのに、今日初めて……」

と、毎日が記念日だったのではないのでしょうか。

小学校での6年間の成長は大きなものです。

小さな成長を発見し、見守り、ほめたいですね。